

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04248

研究課題名（和文）精神障害当事者が行うアドボカシーの機能と役割の明確化及び研修プログラムの開発

研究課題名（英文）Clarification of the roles and functions of peer advocacy for persons with serious mental health conditions and the development of a training program

研究代表者

坂本 智代枝（SAKAMOTO, CHIYOE）

大正大学・人間学部・教授

研究者番号：00317645

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は精神障害当事者が行うアドボカシーの機能と役割の明確化とその研修プログラムを開発することである。方法は、国内外の精神障害当事者が行うアドボカシー活動の実践者にインタビューを行いグラウンデッド・セオリーで分析し、研修プログラムを作成し実施して効果を検証した。その結果、北米の先駆的な精神障害当事者が行うアドボカシーの機能と役割について明らかにすることができた。それらの機能と役割をもとに、国内の調査結果と比較検証して日本型の研修プログラムの試案を開発することができた。さらに、その研修プログラムの試案をもとに研修プログラムを実施し、効果を評価し研修テキスト及びマニュアルを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先駆的な精神障害当事者が行うアドボカシー（ピアアドボカシー）の実践から調査研究を踏まえて機能や役割と支援プロセスを明らかにして、日本版のピアアドボカシー研修プログラムとマニュアルを開発することに本研究の最大の特徴と独創的な点がある。国内外の研究者と精神障害当事者との協力を得ることで、障害者のアドボカシー研究への示唆を提供する新たな資料と知見が得られると予想できる。さらに、実効的なピアアドボカシーの研修プログラムを開発することで、ピアアドボカシーの機能と役割を明確に位置づけることが可能となるし、ピアアドボカシーを担う精神障害当事者の人材の育成にも貢献できることが期待される。

研究成果の概要（英文）：The specific aims of the present study were to clarify the functions and roles of peer advocacy among persons with serious mental health conditions; and to develop a training manual for peer advocacy in Japan. Face-to-face qualitative interviews were conducted with 7 Japanese and 3 American peer advocates. Data were thematically analyzed. Based on the 11 roles and functions extracted, a peer advocacy training program was developed, implemented, and qualitatively evaluated. Drawing on the feedback from the evaluation, the final training manual was developed.

研究分野：社会福祉

キーワード：精神障害当事者 アドボカシー ピアアドボカシー 研修プログラム ピアサポート

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には以下の2点がある。

#### (1) ピアアドボカシーとしての機能と役割の明確化の必要性

精神障害当事者が行うアドボカシー(ピアアドボカシー)活動の源流は、1930年代に精神保健福祉システムの先進国である北米において始まったといわれている。その後1940年代から1960年代にかけてセルフヘルプグループから発展してクラブハウスモデルが確立された。1970年代に入ると、専門職主導の精神保健福祉システムを批判したオルタナティブサービスが、当事者によって運営されるようになりピアサポート活動の大きな柱にピアアドボカシー活動が活発に行われるようになった。1980年代に入るとコンシューマー運動に発展し、日本においても紹介され、精神障害者の地域生活支援活動にまで広がってきた。2000年代に入ると欧米において、ピアアドボカシーの具体的な実践として、当事者運営サービスが精神保健福祉システムに組み込まれて、当事者が政策決定に参画することが当然のこととなっている。当事者であるピアサポーターのアドボカシーに期待する機能や役割は大きいものの、ピアアドボカシーとしての機能と役割及び支援プロセスは明確になっていない。さらに、地域精神保健福祉活動におけるピアサポーターの活動が拡がりを見せる中で、ピアサポーターが行うアドボカシー機能(坂本:2008)にみられるように「体験的知識」を活用したアドボカシーの実践の蓄積がある。これらのことから、精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割及び支援プロセスを明らかにする必要がある。

#### (2)精神障害当事者が行うアドボカシーの研修プログラムの開発の必要性

次に明らかにした精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割及び支援プロセスをもとに日本版のピアアドボカシー研修プログラムとマニュアルを開発する必要がある。国内外の研究者と精神障害当事者との協力を得ることで、障害者のアドボカシー研究への示唆を提供する新たな資料と知見が得られると考える。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、国内外のピアアドボカシーの機能と役割と支援プロセスを明らかにすることである。さらに、それらと比較検証することで、日本版のピアアドボカシー研修プログラムの試案を開発し、研修会を実施し実効性のあるある研修プログラムとテキスト及びマニュアルの開発をすることである。

### 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために以下の方法を行った。

精神障害当事者が行うアドボカシーの機能と役割及び支援プロセスを明らかにするために、連携協力者と研究協力者とともにニューヨーク州の特にピアアドボカシーを実践している「Bronx Peer Advocacy Center」等のフィールドワーク及び3名のインタビュー調査を実施してグラウンデッド・セオリーアプローチを用いて分析した。そして、日本版精神障害者ピアアドボカシー研修プログラムの試案を開発するために、その分析結果をもとに国内の精神障害者のピアサポーター7名にインタビュー調査を実施した。国内外の調査結果を踏まえて開発した研修プログラムの試案をもとに、精神障害者ピアアドボカシーの研修会を精神障害当事者対象に実施した。そこで、フィードバックやアンケートの結果から効果的な研修テキストとマニュアルを作成した。

国外調査における通訳は研究協力者が担い、英語による逐語データを日本語に訳した。倫理的配慮として、国内外のインタビュー調査では、個人が特定できないようにすることを含む事項を文書で説明し、調査協力者の同意を得て実施した。本研究は大正大学研究倫理審査委員会による承認を得て実施した(承認番号第:17-019号、18-026号)。

### 4. 研究成果

#### (1)精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割の明確化

ニューヨーク市のピアアドボカシーの実践団体バルティック・ストリート「Baltic Street :Advocacy -Employment -Housing」の活動プログラムの調査とその中でも代表的なプログラムのブルックリン・ピアアドボカシーセンター(Brooklyn Peer Advocacy Center)とブリッジャー・サービス(Bridger Services)のディレクターとスタッフにインタビュー調査を実施した。バルティック・ストリートは、ニューヨーク市において、唯一の当事者運営サービスの基準を保ち先駆的に実践し、ニューヨーク市(NY市)において唯一の当事者運営サービス(COS)注)の基準を保っており、先駆的なピアアドボカシーの実践団体である(Joanne L. Forbes : 2015)。代表的なプログラムであるブルックリン・ピアアドボカシーセンターの代表理事1名とブリッジャー・サービスのディレクターならびに認定ピアスペシャリスト2名に半構造化面接による調査を行い、グラウンデッド・セオリーアプローチによりコードを振り、カテゴリー化して整理した。

バルティック・ストリートは、1996年にニューヨーク市のブルックリン(Brooklyn)に設立され、今日では当事者運営サービスとして、1年間に5,000人が利用する。プログラムの特徴はリカバリーとセルフヘルプを基本に据え、利用者自身がセルフアドボカシーをできるようにスキルの構築やコーチングをしていることである。プログラムは研修を受けたピアスペシャリスト

が運営し、メディケイドの対象になっている。すべてのサービスに「ピアアドボカシー」の理念が基本にあり、直接に住居サービス等の地域生活支援サービスを行うことや、公的なサービス等にも同行するなど「伴走型」の支援を行うことが特徴であることが明らかになった(坂本:2018)。

分析結果から 17 のコードが抽出され、11 のカテゴリーとして【政策への提言】【地域を基盤としたサービス】【専門職と当事者との通訳】【ブリッジャー(橋渡し)】【セルフアドボカシーの促進】【生活着型支援】【違和感からの解放】【当事者の夢を実現する】【生き方の学習支援】【危険を冒す権利の支持】【経験的共感】の機能と役割が抽出された。これらのカテゴリーは、ミクロ、メゾ、マクロレベルにおいてピアアドボカシーの機能と役割が網羅している。その中でも、ピアアドボカシーの特徴を表しているカテゴリーを紹介したい。

#### 1) ミクロレベルのピアアドボカシー

【セルフアドボカシーの促進】カテゴリーは、自分の意思をもつことに自信がもてるように支援する、意思を表明するスキルを使えるように支援する、主体的に意思を表明できるまで根気よく寄り添う の3つのコードから構成されていた。【違和感からの解放】カテゴリーは、賢い消費者になるための情報提供と教育、利用者が感じる違和感を引き出す の2つのコードから構成された。

#### 2) メゾレベルのピアアドボカシー

【専門職と利用者との通訳】カテゴリーは、利用者が治療チームとコミュニケーションを促進できるように励ます、利用者や専門職とが理解し合えるように継続的に通訳する の2つのコードから構成されていた。【ブリッジャー(橋渡し)】カテゴリーは、保健医療福祉サービスを活用できるようにアシスト、利用者や治療チームとのギャップに橋をかける、治療チームと協働して補完的な役割を担う の3つのコードから構成された。

#### 3) マクロレベルのピアアドボカシー

【政策への提言】カテゴリーは、政策の意思決定プロセスに参画、体験したからこそその必要なサービスを開発する、事業計画の策定を通して事業化 の3つのコードから構成された。

ピアアドボカシーは、ソーシャルワーク専門職と共通するアドボカシー機能と役割もあるが、当事者であるからこそそのピアアドボカシーの機能と役割が明確にあることが明らかになっている。ピアサポートの意義として、ピアアドボカシーの機能と役割にあることが示唆された。特にミクロレベルにおけるピアアドボカシーでは、日常生活支援の中で主体的に意思を表明できるまで根気よく寄り添う ことや 意思を表明するスキルを使えるように支援する こと、つまり意思を表明することへの具体的な支援を通して、セルフアドボカシーの支援を行っていた。それから意思決定支援の具体的な方法への示唆が得られた。さらに、メゾ、マクロレベルにおいて、ミクロレベルのピアアドボカシーを支えるシステムを専門職との協働作業で展開し、新たなプログラムの開発を通して、政策にアプローチするソーシャルアクションまで展開しているところに、ピアアドボカシーの機能と役割の意義があると考えられる(坂本:2019)。

#### (2) 精神障害当事者が行うアドボカシーの研修プログラムの開発

日本の地域精神保健福祉領域においてピアサポーターとして実践し且つ研修の企画運営している精神障害当事者7名に協力を得て、半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。分析方法は、グラウンデッド・セオリーを用いて、当初の予定の研究方法を調査協力者の都合により、個別のインタビュー調査に変更して継続的比較分析をした。

分析の結果、【専門職と当事者との通訳】、【専門職との懸け橋】、【意思の形成の後押し】、【意思の表明の後押し】、【セルフアドボカシーの学習支援】、【政策への提言】等の13コのカテゴリーが抽出された。

国内外の調査結果を比較分析し、精神障害当事者が行うピアアドボカシーの研修テキストとプログラムを作成して、出前型で関東近県(計3回、80名)にて試行的に実施した。その際のアンケート等をもとに効果を評価し、ピアアドボカシーの実践について、意識化し明確になったことで、意思決定支援の機能と役割に示唆を得ることができた。さらに、研修の結果を踏まえて、ピアアドボカシーに有効なテキストとマニュアルを開発した。その機能のなかで、【セルフアドボカシーの促進】、【違和感からの解放】、【危険を冒す権利の支持】、【ブリッジャー(橋渡し)】、【生き方の学習支援】、【政策への提言】が特に他の障害当事者にも応用可能性が示唆されたことから、精神障害当事者から対象を拡げて障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割を明らかにし、研修プログラムを開発する必要があると考えられる。次年度に向けて研究を継続する予定である。

注 当事者運営サービス(COS)とは、当事者によって計画、運営、管理、評価されるサービス、管理や活動が精神保健サービス提供者から独立し、理事会などの理事の51%を当事者が占め理事会やスタッフ、予算をコントロールし当事者が参加する団体であるとされている(SAMHSA:2011)。

#### 引用文献

- 坂本智代枝(2008a)「精神障害者のピアサポートにおける実践課題 当事者とパートナーシップ構築するために」『大正大学研究紀要』 第 93 号 pp172-190.
- 坂本智代枝(2008b)「精神障害者のピアサポート活動におけるエンパワメントの条件に関する研究 グループインタビューにおける複合分析を通して」『鴨台社会福祉学論集第 17 号』,pp41-52.
- 坂本智代枝(2018)「当事者運営サービスの先駆的な取り組み」『精障害者リハビリテーション学会誌』 Vol.22No.1,82~84.
- SAMHSAThe(2011) Evidence Consumer-Operated Services,p9.
- Joanne L. Forbes 2015): MADNESS Heroes Returning From the Front Lines, LuLu,2015
- 坂本智代枝(2019)「精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割」『響き合う街で』90号,通巻127号,やどかり出版.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 坂本智代枝	4. 巻 93号
2. 論文標題 地域生活支援の実践活動の萌芽から新たな実践モデルの創造へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 やどかり出版『響き合う街で』	6. 最初と最後の頁 40-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本智代枝 田中喜美子	4. 巻 127
2. 論文標題 精神障害当事者のピアドボカシーの機能と役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 やどかり出版『響き合う街で』	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本智代枝 栄セツコ 岩崎香 全体 3名	4. 巻 43号(22巻1号)
2. 論文標題 海外の動向 当事者運営サービスの先駆的な取り組み 「Baltic Street :Advocacy -Employment - Housing」におけるPeer Advocacy と Bridger Services	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神障害とりハビリテーション	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 坂本智代枝
2. 発表標題 ピアサポーターの力を活かす
3. 学会等名 公益社団法人 やどかりの里 ピアサポーター研修会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本智代枝
2. 発表標題 ピアサポートの可能性
3. 学会等名 やどかり出版 体験発表会 ピアサポートの講義
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本智代枝 田中喜美子
2. 発表標題 精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割
3. 学会等名 一般社団法人精神保健福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本智代枝 田中喜美子 栄セツコ 岩崎香 御園恵将
2. 発表標題 ニューヨーク市における当事者運営サービスの視察報告 - Peer Advocacy と Bridger Servicesの取り組み -
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本智代枝 田中喜美子 栄セツコ 岩崎香 御園恵将
2. 発表標題 ニューヨーク市における当事者運営サービスの視察報告 - Peer Advocacy と Bridger Servicesの取り組み -
3. 学会等名 大正大学学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本智代枝 田中喜美子
2. 発表標題 精神障害当事者のピアアドボカシーの機能と役割
3. 学会等名 やどかり研究所 学術研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本智代枝
2. 発表標題 ピアアドボカシーの意義と可能性
3. 学会等名 大正大学大学院公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本智代枝
2. 発表標題 ピアサポーターとの協働を考える
3. 学会等名 NPO法人 ひきねっと 研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本智代枝・御園恵将
2. 発表標題 精神保健福祉領域における当事者運営サービスの機能と役割に関する包括的研究
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 坂本智代枝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 9頁
3. 書名 障害ピアサポート	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 喜美子 (TANAKA Kimiko)  (50823655)	東京福祉大学・社会福祉学部・教授  (32304)	
連携研究者	栄 セツコ (SAKAE Setsuko)  (40319596)	桃山学院大学・社会学部・教授  (34426)	
連携研究者	岩崎 香 (IWASAKI Kaori)  (20365563)	早稲田大学・人間科学学術院・教授  (32689)	